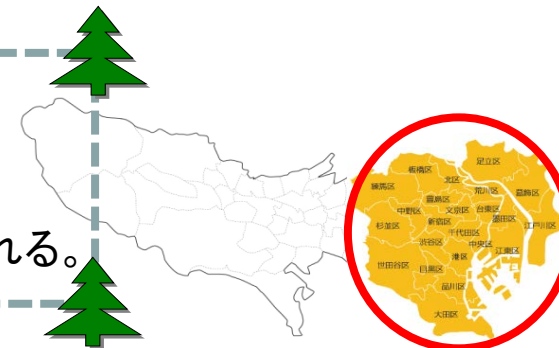


鉄道貨物輸送が全て他モードにシフトした場合のCO2排出量影響

当社の鉄道貨物輸送が全て他輸送モードにシフトした場合、
年間300万トン弱のCO2排出量増につながると想定され、
 増加した排出CO2を吸収するためには、
東京23区の面積の5～6倍の広さの森林が必要となるものと想定される。



	H26年度	H27年度	H28年度
全社発着トンキロ	18,847百万トンキロ	19,344百万トンキロ	19,083百万トンキロ
CO2排出増加量想定	2,807,130t	2,898,130t	2,910,598t
吸収に必要な森林面積	332,861ha	343,652ha	345,130ha
東京23区の面積換算 (61,900ha)	5.38倍	5.55倍	5.58倍

試算の前提

北海道発着の貨物については、船舶へのシフト分とトラックへのシフト分に按分して試算。それ以外の地区発着の貨物については、全てトラックへシフトするとして、CO2排出増加量を試算。

- 鉄道と船舶の排出原単位の差・・・16g-CO2/トンキロ
- 鉄道とトラックの排出原単位の差・・・204g-CO2/トンキロ

森林面積の試算に当っては、40年生前後のスギの1年あたりの炭素吸収量「2.3t/ha/年」(林野庁の公表資料より)を使用。これに上記CO2排出増加量を炭素(C)量に換算(12/44を乗じる)した上で試算。